幸福とは平和につながること

南中学校　一年　清澤　彩桜

私が平和体験学習に参加して一番印象に残った事は、資料館で見た原爆が落ちた広島の街の写真だ。そこには放射能を受けてひふが垂れ下がり、焼けただれた人が写っていた。見たことがない人間の様子に、正直私はとても怖いと感じた。見た目はもちろんのこと、その様子でも生きているということは、どれだけの痛みや苦しみがあったのだろうかと想像しただけで鳥肌が立った。

実際に被爆した方の話を聞くこともできた。その方は９０歳のおじいさんで当時１０代だった。爆心地の近くで被爆したそうだ。当時の家族の話をしてくれた。原爆により母親、弟や妹を亡くしたそうだ。生き延びたのは父親、姉、自分の三人だけだったそうだ。母親は家で幼い弟たちを守るためにそのおじいさんを先に避難させ、にげ遅れたとのことだ。先ににげて自分が助かったことを悔やんでい

20 × 20

ると言っていた。私はあまりのことにまた鳥肌が止まらなかった。自分の身に同じことが起きたらどうだろうか。想像するだけでも恐ろしい。その方は最後に幸福とは平和につながることだという言葉を私達に伝えてくれた。

伝えてくれた言葉を私なりに考えてみた。幸福とは私も、私の周りの人も笑っていることと、平和とは人を殺さないこと、無駄な争いをしないことだと考えた。そのために私はまずは自分が笑っていられる環境をつくることが大事だと思う。

この広島訪問がなければ、このような気持ちになることはなかった。教科書やテレビで見るだけであまり理解はできていなかった。

私は平和体験学習に参加して本当に良かった。日本に原爆が落ちたこと、その恐怖やつらさ、平和を願う気持ちを忘れないようにしたいと私は思った。